

# 三菱ふそう<sup>※1</sup> 環境・社会報告書2006について

## 編集方針

三菱ふそうは、トラック・バスという公共性のある製品を世の中に送り出す企業として当社の環境保全の取り組み、社会活動などをステークホルダー(利害関係者)の皆様に情報開示することを目的とし、環境・社会報告書2006を発行致します。本報告書作成にあたっては、環境省発行の「環境報告書ガイドライン(2004年3月発行)」に基づいて掲載内容の充実を図るとともに、一般の方々にも読んで頂けるよう分りやすさの向上に努めています。

## 報告対象期間

今号から、社の営業年度の変更(年度→暦年)に伴い、基本的に2005年(2005年1月～2005年12月)を対象範囲とします。ただし、各種法律や業界関連で年度をベースとした取り組みについては、2005年度(2005年4月～2006年3月)の実績データを報告致します。また、一部2006年4月以降の事例についても紹介致します。

## 報告対象範囲

三菱ふそうの日本国内における環境活動、社会活動を報告致します。環境活動については、企業活動全体を通した環境負荷の低減実績やその活動について、トラック・バスの開発・設計、調達、生産、物流、販売、廃棄・リサイクルという流れで報告致します。

## 企業概要

### シンボルマーク



商 号 : 三菱ふそうトラック・バス株式会社  
(Mitsubishi Fuso Truck and Bus Corporation)

設立 : 2003年(平成15年)1月6日

本社 : 〒108-8285 東京都港区港南二丁目16番4号

資本金 : 200億円

主な事業 : トラック、バス、商用車その他の自動車並びに  
その構成部品、交換部品及び付属品の開発、設計、  
製造、組立、売買、賃貸、輸出入その他の取引業。ほか

従業員数 : 約18,200名(連結/2005年12月末日ベース)

売上高 : 3,775億円(単独、9ヶ月間)  
(2005年4月1日～2005年12月31日)

ホームページアドレス : <http://www.mitsubishi-fuso.com>

# 目次

三菱ふそう環境・社会報告書2006について	P. 1	環境負荷低減への取り組み Environmental Performance	P.27
目次	P. 2	自動車の一生と環境負荷	P.28
ごあいさつ	P. 3	1. 開発・設計	P.29
ダイムラー・クライスラーグループの一員として	P. 5	2. 調達	P.36
Topics 1 「キャンター エコ ハイブリッド」の環境技術	P. 7	3. 生産	P.37
Topics 2 環境と品質に配慮した新塗装工場	P. 11	4. 物流	P.41
Topics 3 社会貢献活動	P.15	5. 販売	P.42
環境マネジメント Environmental Management	P.17	6. リサイクル	P.43
1. 環境指針	P.18	7. 海外関連会社の環境保全活動	P.45
2. 環境サステナビリティプラン	P.19		
3. 組織体制	P.21		
4. 環境監査	P.22		
5. 緊急時対応など	P.22		
6. ISO14001への取り組み	P.23		
7. 社内教育/啓発	P.23		
8. 環境会計	P.24		
9. コミュニケーション	P.25		
10. 関連会社の取り組み	P.26		
		社会活動 Social Responsibility	P.47
		1. 企業倫理	P.48
		2. 品質向上	P.49
		3. お客様との関わり	P.52
		4. 人にやさしい製品の普及	P.52
		5. 従業員との関わり	P.53
		6. 福祉活動	P.55
		7. その他の社会活動	P.55
		8. 地域社会への貢献	P.57
		製作所レポート	P.59
		編集後記	P.62

# ごあいさつ



三菱ふそうトラック・バス(株)  
取締役会長(代表取締役)  
企業倫理担当役員・CBEO

江頭 啓輔

江頭 啓輔

## 「信頼度No.1企業」を目指して

三菱ふそうは昨年9月、過去の品質問題に係るリコール届出を完了し、第1フェーズを終了しました。その間、「企業活動の透明性」・「コンプライアンス」・「品質向上」を3つの柱として、企業文化や組織の改革を行いました。

10月以降は第2フェーズと位置づけ、「国内事業の統合」と「DC(ダイムラー・クライスラー)へのグローバルレベルでの統合」を2つの柱とした“本業での基盤構築”を進めてきました。まず、26の国内販売会社とFEC(ふそうエンジニアリング)社を三菱ふそうに統合したことで、開発・生産・販売・サービス・品質の各部門の距離を縮め、組織のスリム化が実現しました。また、メルセデスベンツ・トラック、フレートライナー、三菱ふそうからなる「DCトラックグループ」の一員として、世界販売ネットワーク、研究開発はもちろん、購買、生産、財務、IT、コミュニケーション、アフターサービスにおいてもスケールメリットを生かした協業を推進していきます。

弊社の“本業”は輸送手段、移動手段を通じた社会への貢献、すなわち、お客様に信頼できるトラック・バスを提供することです。しかし、その企業活動が多大な環境負荷を発生することも事実であり、それを極力減らすことは最重要課題と考えます。自動車の材料・部品調達から、生産、使用、廃棄(リサイクル)に至る全ての段階での環境負荷を低減し、持続可能な循環型社会の構築に寄与すべく環境への取り組みを推進していきます。また、雇用、福祉、文化活動、地域活動などを通じた社会貢献活動にも積極的に取り組んで参ります。

こうして、お客様はもちろん、その他社会の全ての皆様から信頼されるNo.1の企業を目指すことを長期的なビジョンとして今後の企業活動を進めて参ります。



三菱ふそうトラック・バス(株)  
取締役社長(代表取締役)  
最高経営責任者(CEO)

ハラルド・ブルストロー

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Harold Bulstrode".

## 「環境・社会報告書2006」の発行にあたり

ここに2冊目の環境・社会報告書を発行できることを光栄に思います。

国内外において、地球温暖化防止や化学物質削減への法制度化が進む中、三菱ふそうは「環境サステナビリティプラン」に沿って着実に対応を進めています。

本年7月に発売した「キャンターエコハイブリッド」は弊社独自のハイブリッド技術を結集したもので、“世界一クリーンなハイブリッド小型トラック”といえます。それは優れた低燃費性能を持つとともに、世界一厳しい新長期排出ガス規制を小型トラックでは国内で初めて達成しました。弊社はDC(ダイムラー・クライスラー)トラックグループの中のHEV技術開発の中心拠点として今後もリーダーシップを発揮していきます。

一方、5月に川崎工場で新塗装設備が稼動を開始しました。これは、工場から出るVOC(揮発性有機化合物)を大幅に低減すると同時に、省エネ、すなわち地球温暖化防止にも効果が期待できるものです。

環境活動を行うためには、技術開発、投資などに多くの費用がかかります。しかし本業である経済活動の他に、環境活動、社会貢献活動にもバランスよく力を注ぎ、社会の皆様に三菱ふそうの存在意義を認めて頂くことが大切であり、これはDCの考えとも一致しています。

DCトラックグループの一員であるメリットは、技術開発以外にも多くの分野で期待できます。調達、生産、販売、サービスなどの分野においてもグループ内のシナジーを発揮し、環境活動、社会活動を推進していきたいと思います。

本報告書では、三菱ふそうの環境・社会活動の実績、方針などを忠実、正確に報告することを心がけました。皆様の率直なご意見、ご感想を頂ければ幸いです。

ダイムラー・クライスラー・グループの一員として。



ダイムラー・クライスラー社のトラックグループには  
3つの強力な車両ブランドがあり、グループの販売台数は、  
世界NO.1の約80万台に及びます。その中核を担うのが  
欧州市場を中心に活躍するメルセデス・ベンツ、北米市場を  
中心に活躍するフレートライナー、そして日本・アジアを中心に  
活躍する三菱ふそうです。三菱ふそうはアジア地域を担う  
一員として、また商品面では小型トラックの開発・生産拠点  
として、さらに技術面ではハイブリット技術でプレゼンスを  
発揮し、ダイムラー・クライスラー・トラックグループの中で  
これからも重要な役割を担っています。



1932年にB46型バス「ふそう」を製造してから75年。  
現在、アジアをはじめとして世界中に認知されるブランドへと躍進。品質・技術・サービスのすべてにおいて「お客様第一」を目指して、走り続けています。



Mercedes-Benz



欧州および南米、中近東において高性能商用車ブランドとしての存在を不動のものとしている「メルセデス・ベンツ」。その輝かしい歴史を背景に、安全・環境技術において世界の最先端をリードし続けています。



A DaimlerChrysler Company



傘下に数多くの商用車ブランドを有する、北米随一のトラック製造企業「フレイトライナー・グループ」(本社:オレゴン州)。現在、北米、カナダ、メキシコ市場向けに、高品質の製品・サービスを提供しています。